

「せら里山楽校（冬の生きもの観察会）」報告

2024年3月17日（土）9:00～12:30

講師：内藤順一氏（比婆科学教育振興会）
延安 勇氏（せら夢公園自然観察園）
中島秀也氏（せら夢公園サポーターズクラブ・ヒョウモンモドキ保護の会）
橋本卓三氏（せら夢公園サポーターズクラブ・ヒョウモンモドキ保護の会）
柳谷哲史氏（せら夢公園サポーターズクラブ・ヒョウモンモドキ保護の会）
山岸瑞樹氏（世羅町地域おこし協力隊）

主催：広島県環境県民局 自然環境課

令和6年（2024年）3月17日、世羅郡世羅町の「せら夢公園（せら県民公園）」内にある自然観察園にて、生きもの観察会を開催しました。自然観察園は、細長い谷あいには、田んぼ、湿原、ため池、アカマツ林などの里山環境が保全されています。ここでは、世羅台地特有の多様な動植物を見ることができ、全国的にも絶滅が危惧されているチョウの仲間の「ヒョウモンモドキ」の保護活動も行われています。

当日は、ご家族や個人、福山大学生命工学部の学生と先生など、子供から大人まで総勢55名が集まりました。非常に多くのご参加をいただいたので、1班10数名ずつの4班に分け、各班に専属の講師がついて園内を巡ることとしました。講師は、県内の両生類に精通し、広島県のレッドデータブックの作成にも長年携わってこられた内藤順一氏、世羅台地の里山環境の保全やヒョウモンモドキの保護活動に取り組んでおられる延安勇氏、中島秀也氏、橋本卓三氏、柳谷哲史氏、山岸瑞樹氏にお願いしました。

観察会は、「せら夢公園管理センター」前で、まず、全体スケジュールの説明や講師の紹介、公園内での注意事項などのオリエンテーションをしたのち、座学として、観察会スタッフから“ひろしま県民いきもの調査”と“いきものログ”について、登録方法などの説明がありました。



オリエンテーション



生きものログの説明

そのあと、専用のパネルを使いながら、中島氏から、ヒョウモンモドキの生態やかつては日本に広く生息していたが、現在は広島県の世羅町、三原市の久井町と大和町の一部にしか残っていないこと、園内での保護活動の内容などについての解説がありました。続いて、内藤氏から、園内では湿地や山際の湧き水のまわりでアカガエルや小型サンショウウオの産卵がこの時期に行われること、卵を産みに来た親が今日見つかるかもしれないことなどのお話がありました。



ヒョウモンモドキの解説



両生類の早春産卵の解説

座学が終わり、いよいよ現地での観察会です。園内はなかなか急峻な地形ですが、谷の地形にあわせた周回の歩道があります。各班は講師の先生に先導されて歩道を移動しながら、雑木林や湿地、田んぼ、ため池などを巡り、各所で動植物の詳しい説明を聞いていました。



丸太の裏で越冬していたキタテハ
(チョウの仲間)の観察



ため池に生育する水生植物の観察

順路には、ヒョウモンモドキの保護施設や屋外の生息地があります。保護施設では、今年は残念ながら幼虫の成育がうまくいっていないようですが、屋外の生息地には春を待つ幼虫が草陰でじっとしているとのことでした。ヒョウモンモドキは、幼虫が湿地に生えるキセルアザミを食べ、成虫は湿地の周りやあぜに生えるノアザミの蜜を吸います。これらのアザミ類が生育できる湿地を維持するには、草刈りなど日々の管理が大切です。園内の貴重な生息地は、ボランティアの人たちの大変な努力で守られていることがうかがえました。



ヒョウモンモドキの保護施設



幼虫が生息している湿地

小さな谷から湧き水が出ているところでは、毎年、小型サンショウウオの一種、アキサンショウウオが産卵しています。ここでは、回ってくる班が到着するたびに、内藤氏による詳しい解説があり、産卵に訪れている成体や落ち葉の下に産みつけられた卵（卵のう）を見ることができました。

流れの無い止水に産卵する小型サンショウウオは、中国地方では、かつてカスミサンショウウオ1種とされていましたが、近年、遺伝子の研究によって多くの別種に分けられ、広島県にはセトウチサンショウウオ、アキサンショウウオ、ヒバサンショウウオ、イワミサンショウウオ、ゲイヨサンショウウオ、ヒロシマサンショウウオの6種が、異なる地域に生息しているとのことでした。



倒木の下にいたアキサンショウウオ



アキサンショウウオの卵の解説

園内の他の場所でも、湧き水が溜まっているところではアキサンショウウオの卵が多く見つかりました。また、田んぼの水溜まりでは、ニホンアカガエルの卵（卵塊）がたくさんあり、孵化したオタマジャクシも見ることができました。いずれも早春のこの時期にしか見ることができないもので、参加者の人たちにとって貴重な体験になったようです。



アカガエルの卵探し



見つかったニホンアカガエルの卵塊



卵から孵化したオタマジャクシ



ニホンアカガエルの成体



アキサンショウウオの卵探し



見つかったアキサンショウウオの卵のう

途中、小雨が降りましたが、幸い気温が高く、2 時間ほどの園内の観察を終えて、各班が管理センターに戻ってきました。机に分かれて今日体験したことを振り返ります。思い思いの感想や体験したこと、見つけた生きもの、気づきなどを模造紙に書いていただき、代表者に発表していただきました。

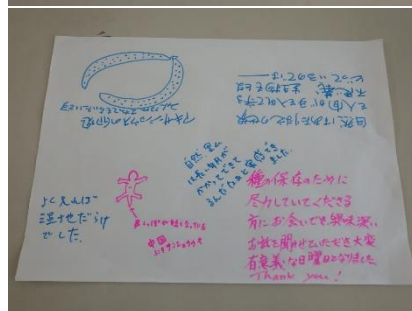
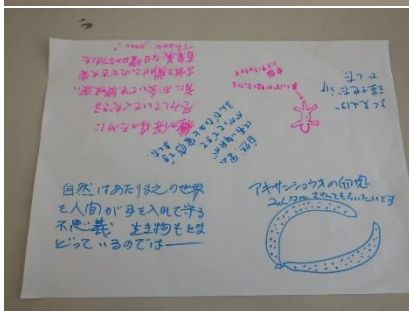


振り返り



観察会のまとめ

「初めて触った、ぬるぬるした、楽しかった」、「自然を守っている人たちと観察でき、話が聞けてよかった」、「里山は長い時間をかけて成り立ってきたということが分かった」など、多くの感想をいただきました。世羅台地の豊かな自然を実感し、里山の自然を守るためにはどうしたらよいかを考えるよい機会になったのではないのでしょうか。



参加者の皆さんの感想・気づき